

こいずみ

小泉 あつし

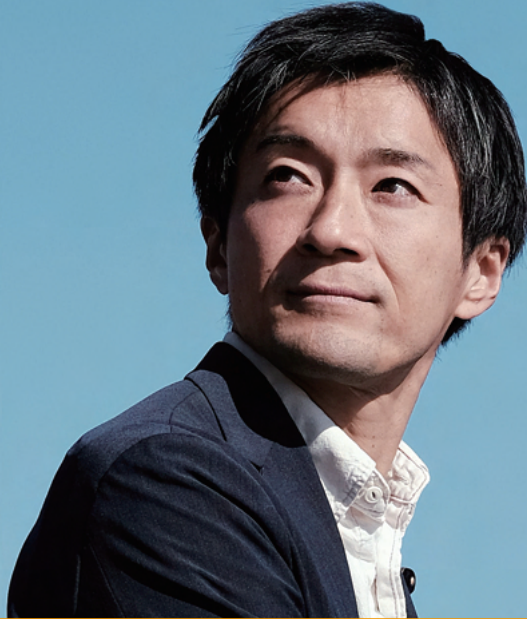
報

香川県議会議員・無所属・議会/県政報告

2025

- 第七号 -

- 現在小泉あつしが所属する委員会
- 文教厚生委員会
- 県立アリーナ整備等に関わる特別委員会



令和七年の抱負

みなさま、こんにちは、小泉敦です。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

2025年香川県におきましては、県立アリーナの開館、大阪関西万博の開幕、瀬戸芸の開催とトリプルオープン之年となっております。これを機会に小豆島にもたくさんの方の観光客が訪れることになるかと思っております。

昨年より住民の皆さんから言われていたこととして、「観光に来た人が、道路を走っていても海が見えない所が多い。せっかく瀬戸内海がよく見渡せる島なのにもったいない。」といった声や、「道路がきれいに整備されているか、道路沿いの草木が手入れされているかで、すごく印象が変わる」といった声を聞いています。

人口が減少し、耕作放棄地が増える中、仕方がないことなのですが、できるところから進めていけたらと思っていますので、

「昔はここからえい景色が見えてたんや〜」などといった情報がありましたら是非教えていただければと思います。

今後順次場所を特定し、県や町と連携しながら少しでも改善のお手伝いできたらと思っています。

海と山が近く、世界的にも稀な地形と「これ以上のものは世界の何処にもないであろう。」と言われる優美な景観を持つこの島の魅力を、もっともっと多くの人に発信して、島が好きになってくれる人を増やせるようがんばります！

令和6年11月議会の小泉あつしの質問（一般質問・文教厚生委員会代表質問）

〈定例会一般質問〉

1. 香川県の「道の駅」への知事への思い
2. 海ごみゼロに向けた取り組み
3. 道路点検の効率化について
4. 投票率100パーセントに向けた取り組み
5. 政治無関心ゼロに向けた教育

〈文教厚生委員会質問〉

1. ひとり親家庭への支援について
2. 障害者の就労支援について
3. 不登校児童生徒支援について
4. 特別支援教育の充実について

小泉あつしの質問・一般質問

質問

「小豆島ふるさと村」のリニューアルをはじめとする香川県の「道の駅」の活性化について、知事のお考えは？

約9ヘクタールの広大な敷地に、宿泊施設やイベント場、体験施設、直売所などが整備される予定。今後ふるさと村を整備する中で、必要な支援を受けられるよう知事に質問しました

知事答弁

道の駅は、地元産品の直売所の魅力などにより、道の駅自体が目的地となるなどその役割は大きくなっている。近年はまた、「地方創生・観光を加速する拠点へ」をコンセプトに、防災機能などの公的機能を拡大する取組みや、民間団体等多様な主体と連携を図る取組みが進められている。

「小豆島ふるさと村全体整備基本計画」でも、産直市場での特産品の販売や、加工場での地場産業の体験などが町や民間団体で検討されていると聞いている。こうした計画について、今後地元で検討が深まっていくと思うが、県としても必要な支援をしていきたい。

道の駅は、地域の経済振興など地元の方々が様々な点から利用される可能性を持つ将来性のある施設であると考えており、本県でも機能充実が図られるよう市町と連携して取り組んでいきたい。

質問

海ごみゼロにむけた、定量化の取り組みについて

「海ごみゼロに向かって進んでいる」という実感が持てない。定量化、数値化する必要性を感じて質問しました

知事答弁

河川を撮影し画像解析することで、海ごみの大半を占めるプラスチックごみの瀬戸内海への流入量を把握し、効果的な対策を検討することとしている。今後、各市町とも連携しながら、同ネットワークや、瀬戸内4県と日本財団による「瀬戸内オーシャンズX」の取組み等を通じて、海ごみのさらなる削減に向けた対策を着実に進めていきたいと考えている。



質問

道路の予防的視点からの維持管理や、点検業務の効率化について

知事答弁

河橋梁等の道路構造物については、5年に1回の法定点検を実施し補修を行っている。着手率は昨年度末で約95パーセントで、10年程度で事後保全から予防保全へ移行できると考えている。舗装に関しては、路面性状調査を平成25年度にすべての県管理道路約1,700キロメートルを対象に実施し、損傷の大きい約100キロメートルと、劣化のおそれのある約200キロメートルについて順次補修を進めている。

一方で、前回の調査から10年が経過し新たな劣化も想定されることから、令和4年度からあらためて5年間をかけて調査を進めている。

このような調査には、車両にスマートフォンを搭載し路面画像を撮影し、AIによる画像診断でひび割れ、わだち掘れの深さ等を自動解析し、点検データとして取得する技術が実用化されている。人による測定誤差や見落としが防止できることや、「スト縮減が図られることから、優れた手法であると考えている。

昨年度、高松市内などの緊急輸送道路の路面性状調査でAIを活用した点検を実施しており、今後も新たな技術などを積極的に取り入れながら効率的な点検に努めていく。

質問

人口減少地域における移動期日前投票所の導入など、投票率向上にどのように取り組むか

投票率100%に向けた取組みです

選挙管理委員会委員長答弁

先の衆議院議員総選挙ではインターネット広告を600万回以上掲載するなどして投票参加を呼びかけたが、香川県の投票率は全国平均を0.91ポイント下回った。

若年層の投票率については、高校や大学等への出前授業や、小中学校の出前授業に取り組み市町選挙管理委員会へのサポートを行っており、主権者教育にも取り組んでいく。

さらに、市町選挙管理委員会では、送迎車や船による移動支援のほか、大型商業施設や大学等への期日前投票所の増設など、地域の実情に応じた取り組みを進めている。

県選挙管理委員会としては、投票率の向上に向け、引き続き、移動期日前投票所や市街地の投票環境等の先進事例の把握に努め、市町選挙管理委員会に情報提供や助言を行っていきたい。



質問

学校現場での主権者教育にどのように取り組むか



神奈川県では、参院選にあわせて全県立高校で模擬投票を実施し実際の選挙結果との比較をしたり、先進的な取り組みが行われています

知事答弁

小・中学校では、選挙に参加することの重要性や議会政治の仕組みについて理解を深めるため、児童会・生徒会役員選挙の投票の際、選挙管理委員会の選挙機材を借りたり、子ども議会で自治体への希望や意見などを表明したりするなど、各学校で創意工夫した主権者教育を行っている。

高校では、公民科の授業を中心として主権者教育に取り組んでおり、「総合的な探究の時間」では、地元自治体や企業、大学等との連携により地域課題に主体的に取り組む、地域社会を支える主権者としての自覚を持って行動できる生徒の育成に取り組んでいる。

主権者教育の推進にあたっては、神奈川県での模擬投票のように有権者の立場に立った具体的な行動を伴う取り組みが効果的であることから、模擬投票も含め、他県の事例も参考に、具体的な取り組みを検討のうえ実践していく。

文教厚生委員会

質問

ひとり親家庭への支援について

県がひとり親家庭の生活状況をどのように把握し、支援しているか。貧困家庭では学習面での不利益を鑑みて、県の「ひとり親家庭学習支援員派遣事業」の実施状況、必要な支援情報が届きやすい取組みを検討する必要があるのではないか

子ども家庭課長答弁

5年ごとに「ひとり親世帯等実態調査」を実施し、本年8月には950世帯から回答があった。情報提供や就業、能力開発等の相談など、個々に応じた伴走型の支援を行っている。

今年度は、5市9町から計58名の申込みがあり、うち小学生24名、中学生13名を選定し学習支援員を派遣している。情報が届きにくく、平日は相談に行けないなどの声もある。民間の支援団体や市町と連携し、SNSの活用なども含めて支援情報の発信について検討したい。



質問

障害者の就労支援について

「就労選択支援」という新しい取組みを含め、障害者が生きがいをもって働き、笑顔で生き生きと暮らせる香川を実現するためにも、どのように障害者の工賃向上を目指すのか、また、新しく始まる「就労選択支援」にどのように取り組むかなどを質問しました

障害福祉課長答弁

各事業所の工賃向上に向けた取組み、県の事業者に対する支援に一定の成果があったと考えている。第4期指針を基本とし、年3%の向上を目指す。「就労選択支援」については、来年10月からのスタートに向け勉強会などを行い、施設・事業所の指定を行うなど就労支援の充実に取り組んでいきたい。

質問

不登校児童生徒の支援について

不登校児童生徒数、長期欠席者数が増加しているなか、フリースクール等関係団体等と連携などどのような取組みを実践してきたのか。また不登校によって高校受験で不利益にならないようにしていくことも重要ではないだろうか

義務教育課長・教育長答弁

令和3年から実態調査を行い、「不登校児童生徒支援の手引き」として6月に県内小中学校の全教職員に配付した。

文科科学省からは、出席状況のみで不利益な取扱いをしないよう示されており、県内公立高校には総合的に判断するよう求めている。

質問

特別支援教育の充実について

この10年間で特別支援教育を受ける児童生徒数は倍増し64万人となっている。県教育委員会では、地域の小・中学校や高等学校等に対してどのような支援を行っているのか。また、ギフトテッドと呼ばれる突出した才能がありながら発達障害の特徴と似た子どももいる。多様な子どもたちがいる中、巡回相談も含めて特別支援教育をどのように充実させていくのか。

特別支援教育課長・教育長答弁

令和2年度から小・中学校に専任特別支援教育コーディネーターを追加配置している。また、小・中学校や高校等の管理職や教員等に対しては、研修会を開催している。

ギフトテッドに関しては、文科科学省において、授業や学級経営の在り方等についての実証研究が進められている。多様な子どもたちがいる中、さらに特別支援教育の充実を図りたいと考えている。



*文字数の関係で一部を抜粋・要約して掲載しています。全文はホームページにて公開いたしますので、より詳しくご覧になりたい方はぜひホームページをご確認ください。



定例会を終えて

今回の定例会での一般質問でも、以下のように地元課題や住民のみなさんの声を素材として県に質しました。

・小豆島ふるさと村はエリア全域を対象に、自然環境や地形を活かした機能強化・施設整備を目指し、多様な人々が海と山を軸とした活動・体験ができる場や、次世代の育成に繋がる取り組みを目指しています。再整備にあたって県の支援を受けられるよう、そして前向きな答弁をもらえるよう、町と県の担当課と何度も質問案について協議を重ねた結果、知事が県内の道の駅を整備することにどういう思いを持っているのかを引き出せたらと思い、質問文を構成しました。

・「道路の管理について」住民の皆さんからお問い合わせを受けることが何度もありました。「道路の保守点検の際に、木の枝がもうすぐ伸びてくるということがわかっているなら、そこも修繕の対象にしてほしい」「荒天の後、傾斜等によって土砂がたまる箇所がいつも同じなので、道路の排水を調整することで災害時の道路機能の確保になるのでは」「カーブミラーや標識はいつも根本部分から腐食していくので、根元部分だけ肉厚がある支柱にすればいいのでは」といった声があり、全国での保守点検の好事例も調べて、まとめて知事に伺いました。

・令和4年9月定例会で、小豆郡のポテンシャルに目を向けてほしいという思いから、ゼロを目標とする一般質問をさせていただきました。今回も、海ごみゼロ、政治無関心ゼロ（投票率100%）というゴールを掲げて、小豆が世界へ向けて発信できるコンテンツを作っていきたいという思いでこれらの質問をしました。

今回の一般質問では、当初想定していたよりも前向きな答弁が多く、池田知事の熱い思いを感じました。引き続き、小豆のためになるよう、ビジョンをカタチにできるよう、県議会でみなさんの声を代弁してまいります！！



小泉あつし公式 HP
koizumiatsushi.com



公式 X (旧 Twitter)
[@koichanSOH](https://twitter.com/koichanSOH)



公式 インスタグラム
[@atsushi_koizumi_shodoshima](https://www.instagram.com/atsushi_koizumi_shodoshima)



公式 facebook
facebook.com/Atsushi.Koizumi.Shodoshima

*HPや各種SNS、事務所、報告会などで、ぜひ皆さんのお声を聞かせてください！！

小泉あつし事務所のご案内

草壁にある小泉あつし事務所は住民相談、県議の仕事の説明、住民の憩いの場として開放しています。

また定期的に報告会、住民相談会なども行っています。

活動報告などの資料もあるので、県議の仕事が気になる方、ご意見などある方、どなたでもお気軽にお越しください。

人々が集まる場所になれるよう、温かい空間を作っていけたらと思います。

小泉あつし事務所

〒761-4432 香川県小豆郡小豆島町草壁本町1053-3

TEL : 070-9229-5202 開所日 : 月・水・金 9:30~12:30

